

東京西徳洲会病院初期臨床研修プログラム

東京西徳洲会病院初期臨床研修管理委員会

2024.4.1 改定

1. プログラムの名称・東京西徳洲会病院初期研修プログラム

2. 研修プログラムの目的及び特徴について

- ① 本プログラムは救急科を要に、総合的な臨床能力を有する医師の育成を目指す。エマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアを中心にした実践的な初期研修プログラムである。
- ② 1年次は、救急診療科(2ヶ月)、内科(6ヶ月)、外科(2ヶ月)、麻酔科(1ヶ月)、選択科(1ヶ月)の各科をローテートして外来・病棟診療の基本を身につける。救急科での研修は、2ヶ月間の固定ローテートに加えて、内科・外科研修中も年間を通じて週に1～2回の頻度で(当直を含む)2年次終了まで継続し、エマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアの症例を数多く経験する。
2年次は、小児科(2ヶ月)、産婦人科(1ヶ月)、救急診療科(1ヶ月・麻酔科含む)、精神科(1ヶ月)、地域医療研修(2ヶ月)を必修科とし、残りの5ヶ月を選択科として研修を行う。1年次と同様に全てのローテートと並行して救急診療科にて週に1～2回の頻度で(当直も含む)研修し、1年次研修医の指導を行う。
- ③ 救急診療科での研修は、2ヶ月の研修の他に2年間を通じて他のローテート科と並行して行う。この研修は当プログラムにおいて中心となるエマージェンシー・ケアとプライマリー・ケアの修得の場であり、初期診断から適切なコンサルテーションまで一連の基本的診療技術を身につける。この研修期間中に診察をした患者が入院する場合、原則としてその診療の研修医が所属するローテート科である場合、担当医として継続して一連の治療の経過を研修する。
- ④ 希望者は3年次以降の総合診療科専門研修プログラム、麻酔科専門研修プログラムにも継続して参加でき、認定医・専門医の資格を取得するための研修を受けることができる。

3. プログラム責任者と施設の概要

- ① プログラム責任者 佐藤一彦
医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院
所在地 〒196-0003 東京都昭島市松原町 3-1-1
TEL 042-500-4433 FAX 042-500-4434

- ③ 基幹施設名 医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院
病床数 568 床
医師数 60 名
標榜診療科 31 診療科

③ 学会認定施設

日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本消化器内視鏡学会専門医指導施設
日本消化器病学会関連施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
(3 学会構成)心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設
日本がん治療認定医療機構認定研修医
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本形成外科学会教育関連施設
日本透析医学会教育関連施設
日本腎臓学会研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設
日本放射線腫瘍学会認定協力施設
日本口腔外科科学専門医制度認定研修施設
日本麻酔科学会麻酔科認定施設
日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関
日本プライマリ・ケア連合学会認定医研修施設
日本救急医学会救急科専門医指定施設
西日本がん研究機構 A 施設（乳腺グループ）
日本東洋医学会研修施設
日本循環器学会専門医研修施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本胆道学会指導施設
日本肝臓学会関連施設
日本超音波医学会専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設

④ 協力型臨床研修施設一覧

日本赤十字社医療センター(639 床) 〒150-8935 東京都渋谷区広尾 4-1-22 TEL 03-3400-1311(代)
北里大学病院(1,135 床) 〒252-0375 神奈川県相模原市南区北里 1-15-1 TEL 042-778-8111(代)
湘南鎌倉総合病院(669 床) 〒247-8533 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 TEL 0467-46-1717(代)
湘南藤沢徳洲会病院(419 床) 〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台 1-5-1 TEL 0466-35-1177(代)
湘南厚木病院(253 床) 〒243-8551 神奈川県厚木市温水 118-1 TEL 046-223-3636(代)
松原徳洲会病院(249 床) 〒580-0032 大阪府松原市天美東 7-13-26 TEL 072-334-3400(代)
仙台徳洲会病院(347 床) 〒981-3116 宮城県仙台市泉区高玉町 9-8 TEL 022-771-5111(代)
羽生総合病院(391 床) 〒348-8505 埼玉県羽生市下岩瀬 446 TEL 048-562-3000(代)
庄内余目病院(324 床) 〒999-7782 山形県東田川郡庄内町松陽 1-1-1 TEL 0234-43-3434(代)
茅ヶ崎徳洲会病院(132 床) 〒253-0052 神奈川県茅ヶ崎市幸町 14-1 TEL 0467-58-1311(代)
湘南大磯病院(312 床) 〒259-0114 神奈川県中郡大磯町月京 21-1 TEL 0463-72-3211(代)
生駒市立病院(210 床) 〒630-0213 奈良県生駒市東生駒 1-6-2 TEL 0743-72-1111(代)
神戸徳洲会病院(309 床) 〒655-0017 兵庫県神戸市垂水区上高丸 1-3-10 TEL 078-707-1110(代)
出雲徳洲会病院(183 床) 〒699-0631 島根県出雲市斐川町直江 3964-1 TEL 0853-73-7000(代)
鹿児島徳洲会病院(310 床) 〒891-0122 鹿児島県鹿児島市南栄 5-10-51 TEL 099-268-1110(代)
共愛会病院(378 床) 〒040-8577 北海道函館市中島町 7-21 TEL 0138-51-2111(代)
成田富里徳洲会病院(407 床) 〒286-0201 千葉県富里市日吉台 1-1-1 TEL 0476-93-1001(代)
鎌ヶ谷総合病院(331 床) 〒273-0121 千葉県鎌ヶ谷市初富 929-6 TEL 047-498-8111(代)
大和徳洲会病院(248 床) 〒242-0021 神奈川県大和市中央 4-4-12 TEL 046-264-1111(代)

榛原総合病院(308 床)
〒421-0493 静岡県牧之原市細江 2887-1 TEL 0548-22-1131(代)

⑤ 臨床研修協力施設一覧

東京都立小児総合医療センター(561 床)
〒183-8561 東京都府中市武蔵台 2-8-29 TEL 042-300-5111(代)
平川病院(343 床)
〒192-0152 東京都八王子市美山町 1076 TEL 042-651-3131(代)
名瀬徳洲会病院(289 床)
〒894-0061 鹿児島県奄美市名瀬朝日町 28-1 TEL 0997-54-2222(代)
徳之島徳洲会病院(199 床)
〒891-7101 鹿児島県大島郡徳之島町亀津 7588 TEL 0997-83-1100(代)
日高徳洲会病院(199 床)
〒056-0005 北海道日高郡新ひだか町静内こうせい町 1-10-27 TEL 0146-42-0701(代)
帯広徳洲会病院(152 床)
〒080-0302 北海道河東郡音更町木野西通 14-2-1 TEL 0155-32-3030(代)
白根徳洲会病院(199 床)
〒400-0213 山梨県南アルプス市西野 2294-2 TEL 055-284-7711(代)
大隅鹿屋病院(391 床)
〒893-0015 鹿児島県鹿屋市新川町 6081-1 TEL 0994-40-1111(代)
新庄徳洲会病院(212 床)
〒996-0041 山形県新庄市大字鳥越字駒場 4623 TEL 0233-23-3434(代)
山北徳洲会病院(120 床)
〒959-3942 新潟県村上市勝木 1340-1 TEL 0254-60-5555(代)
喜界島徳洲会病院(89 床)
〒891-6202 鹿児島県大島郡喜界町湾 315 TEL0997-65-1100(代)
瀬戸内徳洲会病院(60 床)
〒894-1507 鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋字トンキャン原 1358-1 TEL 0997-73-1111(代)
屋久島徳洲会病院(140 床)
〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 2467 TEL 0997-42-2200(代)
沖永良部徳洲会病院(132 床)
〒891-9213 鹿児島県大島郡知名町瀬利覚 2208 TEL 0997-93-3000(代)
与論徳洲会病院(81 床)
〒891-9301 鹿児島県大島郡与論町茶花 403-1 TEL 0997-97-2511(代)
宮古島徳洲会病院(99 床)
〒906-0014 沖縄県宮古島市平良字松原 552-1 TEL 0980-73-1100(代)
皆野病院(150 床)
〒369-1412 埼玉県秩父郡皆野町皆野 2031-1 TEL 0494-62-6300(代)

宇和島徳洲会病院(300 床) 〒798-0003 愛媛県宇和島市住吉町 2-6-24 TEL 0895-22-2811(代)
石垣島徳洲会病院(62 床) 〒907-0001 沖縄県石垣市大浜南大浜 446-1 TEL 0980-88-0123(代)
山川病院(89 床) 〒891-0515 鹿児島県指宿市山川小川 1571 TEL 0993-35-3800(代)
館山病院(208 床) 〒294-0045 千葉県館山市北条 520-1 TEL 0470-22-1122(代)
札幌南徳洲会病院(88 床) 〒004-0875 北海道札幌市清田区平岡 5 条 1-5-1 TEL 011-883-0602(代)

⑥ 研修を行う診療科と施設

小児科	協力型臨床研修施設	湘南藤沢徳洲会病院
		羽生総合病院
		生駒市立病院
		神戸徳洲会病院
		共愛会病院
	臨床研修協力施設	東京都立小児総合医療センター
産婦人科	協力型臨床研修施設	日本赤十字社医療センター
		湘南鎌倉総合病院
		羽生総合病院
		生駒市立病院
		神戸徳洲会病院
		共愛会病院
精神科	協力型臨床研修施設	北里大学病院
	臨床研修協力施設	平川病院
内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		湘南鎌倉総合病院
		湘南藤沢徳洲会病院
		湘南厚木病院
		湘南大磯病院
		大和徳洲会病院
		榛原総合病院
		神戸徳洲会病院
		鹿児島徳洲会病院
		共愛会病院
		鎌ヶ谷総合病院
		大垣徳洲会病院

		茅ヶ崎徳洲会病院
		成田富里徳洲会病院
		出雲徳洲会病院
外科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		湘南鎌倉総合病院
		湘南藤沢徳洲会病院
		湘南厚木病院
		仙台徳洲会病院
		松原徳洲会病院
		大和徳洲会病院
		成田富里徳洲会病院
		湘南大磯病院
		神戸徳洲会病院
		鹿児島徳洲会病院
		共愛会病院
		鎌ヶ谷総合病院
		大垣徳洲会病院
		茅ヶ崎徳洲会病院
		出雲徳洲会病院
救急総合診療科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		湘南鎌倉総合病院
		湘南藤沢徳洲会病院
		湘南厚木病院
		大和徳洲会病院
		榛原総合病院
		神戸徳洲会病院
		鹿児島徳洲会病院
		共愛会病院
		鎌ヶ谷総合病院
		大垣徳洲会病院
		成田富里徳洲会病院
緩和ケア科	臨床研修協力施設	札幌南徳洲会病院
地域医療	協力型臨床研修施設	庄内余目病院
	臨床研修協力施設	帯広徳洲会病院
		日高徳洲会病院
		新庄徳洲会病院
		山北徳洲会病院
		皆野病院

		館山病院
		白根徳洲会病院
		宇和島徳洲会病院
		山川病院
		屋久島徳洲会病院
		名瀬徳洲会病院
		瀬戸内徳洲会病院
		喜界徳洲会病院
		徳之島徳洲会病院
		沖永良部徳洲会病院
		与論徳洲会病院
		宮古島徳洲会病院
		石垣島徳洲会病院
脳神経内科	協力型臨床研修施設	湘南大磯病院
循環器内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		湘南大磯病院
		庄内余目病院
整形外科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		湘南大磯病院
		榛原総合病院
		共愛会病院
		鎌ヶ谷総合病院
泌尿器科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		大和徳洲会病院
		鎌ヶ谷総合病院
脳神経外科	協力型臨床研修施設	大和徳洲会病院
麻酔科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		榛原総合病院
		共愛会病院
		鎌ヶ谷総合病院
放射線科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		鹿児島徳洲会病院
耳鼻咽喉科	協力型臨床研修施設	共愛会病院
皮膚科	協力型臨床研修施設	共愛会病院
形成外科	協力型臨床研修施設	鎌ヶ谷総合病院
消化器内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院
		出雲徳洲会病院
乳腺腫瘍科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院

⑦ 臨床研修管理委員会

当委員会は、初期研修プログラムに基づく研修医の受け入れから、管理・運営についての一切について検討するものとし、以下のとおり構成される。

委員名簿

氏名	所属	役職	備考
川邊 貴史	東京西徳洲会病院	救急総合診療科医長	臨床研修委員長 臨床研修指導医（指導医）
佐藤 一彦	東京西徳洲会病院	院長・乳腺腫瘍科部長	研修実施責任者 プログラム責任者 臨床研修指導医（指導医）
堂前 洋	東京西徳洲会病院	院長代行・循環器内科部長	臨床研修指導医（指導医）
江口 武彦	東京西徳洲会病院	主任部長	臨床研修指導医（指導医）
高木 睦郎	東京西徳洲会病院	外科	臨床研修指導医（指導医）
山本 拓	東京西徳洲会病院	整形外科部長	臨床研修指導医（指導医）
阿多 智之	東京西徳洲会病院	循環器内科部長	臨床研修指導医（指導医）
瀧宮 顕彦	東京西徳洲会病院	部長	臨床研修指導医（指導医）
豊岡 朋香	東京西徳洲会病院	内科医長	臨床研修指導医（指導医）
山本 龍一	東京西徳洲会病院	肝胆膵内科部長	臨床研修指導医（指導医）
渕上 ひろみ	東京西徳洲会病院	乳腺腫瘍科部長	臨床研修指導医（指導医）
原 秀彦	東京西徳洲会病院	泌尿器科部長	臨床研修指導医（指導医）
二宮 直紀	東京西徳洲会病院	泌尿器科医長	臨床研修指導医（指導医）
太田 淑子	東京西徳洲会病院	放射線科部長	臨床研修指導医（指導医）
國澤 卓之	東京西徳洲会病院	麻酔科部長	臨床研修指導医（指導医）
工藤 雅響	東京西徳洲会病院	麻酔科医長	臨床研修指導医（指導医）
秋山 類	東京西徳洲会病院	麻酔科医長	臨床研修指導医（指導医）
鳩山 悦子	東京西徳洲会病院	看護部長	看護部門責任者
板垣 伸一	東京西徳洲会病院	放射線科副技師長	コメディカル部門責任者
岩井 大	東京西徳洲会病院	薬剤部薬局長	コメディカル部門責任者
堺 康徳	東京西徳洲会病院	臨床工学科技士長	コメディカル部門責任者
永原 隆之	東京西徳洲会病院	臨床検査科技師長	コメディカル部門責任者
小林 裕明	東京西徳洲会病院	リハビリテーション科係長	コメディカル部門責任者
研修医代表	東京西徳洲会病院		
山田 学	日本赤十字医療センター	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

守矢 英和	湘南鎌倉総合病院	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
江原 宗平	湘南藤沢徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
黒木 則光	湘南厚木病院	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
森田 剛史	松原徳洲会病院	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
佐野 憲	仙台徳洲会病院	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
佐藤 武郎	北里大学病院	臨床研修センター長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
高橋 暁行	羽生総合病院	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
寺田 康	庄内余目病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
甲賀 健史	茅ヶ崎徳洲会病院	内科医長	研修実施責任者
権藤 学司	湘南大磯病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
遠藤 清	生駒市立病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
尾野 亘	神戸徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
田原 英樹	出雲徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
保坂 征司	鹿児島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
水島 豊	共愛会病院	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

荻野 秀光	成田富里徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
堀 隆樹	鎌ヶ谷総合病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
竹上 智浩	大和徳洲会病院	消化器内科部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
高島 康秀	榛原総合病院	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

間瀬 隆弘	大垣徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
満元 洋二郎	名瀬徳洲会病院	院長	研修実施責任者
新納 直久	徳之島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
井齋 偉矢	日高徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
棟方 隆	帯広徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
石川 真	白根徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
西元 嘉哉	大隅鹿屋病院	医員	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
笹壁 弘嗣	新庄徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
小林 司	山北徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
小林 奏	喜界島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
高松 純	瀬戸内徳洲会病院	院長	研修実施責任者
山本 晃司	屋久島徳洲会	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
玉榮 剛	沖永良部徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
高杉 香志也	与論徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
兼城 隆雄	宮古島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
霜田 光義	皆野病院	外科部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
岡 進	笠利病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
松本 修一	宇和島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
池村 綾	石垣島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
野口 修二	山川病院	山川病院	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

能重 美穂	館山病院	医長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
四十坊 克也	札幌南徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
幡谷 浩史	東京都立小児総合医療センター	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
渡部 洋実	平川病院	医局員	研修実施責任者
康 暁博	竹口病院	院長	外部委員

⑧ 指導責任者及び指導医

小児科	協力型臨床研修施設	湘南藤沢徳洲会病院	江原 宗平	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		羽生総合病院	高橋 暁行	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		生駒市立病院	遠藤 清	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		神戸徳洲会病院	尾野 亘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
	臨床研修協力施設	東京都立小児総合医療センター	幡谷 浩史	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
産婦人科	協力型臨床研修施設	日本赤十字社医療センター	山田 学	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南鎌倉総合病院	守矢 英和	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		羽生総合病院	高橋 暁行	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		生駒市立病院	遠藤 清	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		神戸徳洲会病院	尾野 亘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
精神科	協力型臨床研修施設	北里大学病院	佐藤 武郎	臨床研修センター長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
	臨床研修協力施設	平川病院	渡部 洋実	医局員	研修実施責任者
内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	瀧宮 顕彦 豊岡 朋香	部長 医長	臨床研修指導医（指導医）

		湘南鎌倉総合病院	守矢 英和	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南藤沢徳洲会病院	江原 宗平	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南厚木病院	黒木 則光	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南大磯病院	権藤 学司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大和徳洲会病院	竹上 智浩	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		榛原総合病院	高島 康秀	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		神戸徳洲会病院	尾野 亘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鹿児島徳洲会病院	保坂 征司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大垣徳洲会病院	間瀬 隆弘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		茅ヶ崎徳洲会病院	甲賀 健史	医長	研修実施責任者
		成田富里徳洲会病院	荻野 秀光	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		出雲徳洲会病院	田原 英樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
外科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	江口 武彦 高木 睦郎 下元 雄太郎	主任部長 部長	臨床研修指導医（指導医）
		湘南鎌倉総合病院	守矢 英和	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南藤沢徳洲会病院	江原 宗平	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南厚木病院	黒木 則光	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		仙台徳洲会病院	佐野 憲	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

		松原徳洲会病院	森田 剛史	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大和徳洲会病院	竹上 智浩	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		成田富里徳洲会病院	荻野 秀光	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南大磯病院	権藤 学司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		神戸徳洲会病院	尾野 亘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鹿児島徳洲会病院	保坂 征司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大垣徳洲会病院	間瀬 隆弘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		茅ヶ崎徳洲会病院	甲賀 健史	医長	研修実施責任者
		出雲徳洲会病院	田原 英樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
救急総合診療科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	川邊 貴史	医長	臨床研修指導医（指導医）
		湘南鎌倉総合病院	守矢 英和	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南藤沢徳洲会病院	江原 宗平	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		湘南厚木病院	黒木 則光	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大和徳洲会病院	竹上 智浩	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		榛原総合病院	高島 康秀	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		神戸徳洲会病院	尾野 亘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鹿児島徳洲会病院	保坂 征司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		大垣徳洲会病院	間瀬 隆弘	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		成田富里徳洲会病院	荻野 秀光	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
緩和ケア科	臨床研修協力施設	札幌南徳洲会病院	四十坊 克也	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
脳神経内科	協力型臨床研修施設	湘南大磯病院	榎藤 学司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
循環器内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	堂前 洋 阿多 智之	部長 部長	臨床研修指導医（指導医）
		湘南大磯病院	榎藤 学司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		庄内余目病院	寺田 康	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
整形外科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	山本 拓	部長	臨床研修指導医（指導医）
		湘南大磯病院	榎藤 学司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		榛原総合病院	高島 康秀	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
泌尿器科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	原 秀彦 二宮 直紀	部長 医長	臨床研修指導医（指導医）
		大和徳洲会病院	竹上 智浩	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
脳神経外科	協力型臨床研修施設	大和徳洲会病院	竹上 智浩	部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
麻酔科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	國澤 卓之 工藤 雅響 秋山 類	部長 医長 医長	臨床研修指導医（指導医）
		榛原総合病院	高島 康秀	副院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

		共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
		鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
放射線科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	太田 淑子	部長	臨床研修指導医（指導医）
		鹿児島徳洲会病院	保坂 征司	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
耳鼻咽喉科	協力型臨床研修施設	共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
皮膚科	協力型臨床研修施設	共愛会病院	水島 豊	名誉院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
形成外科	協力型臨床研修施設	鎌ヶ谷総合病院	堀 隆樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
消化器内科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	山本 龍一	部長	臨床研修指導医（指導医）
		出雲徳洲会病院	田原 英樹	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
乳腺腫瘍科	協力型臨床研修施設	東京西徳洲会病院	佐藤 一彦	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
			渋上 ひろみ	部長	臨床研修指導医（指導医）

地域医療臨床研修協力施設

寺田 康	庄内余目病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
棟方 隆	帯広徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
井齋 偉矢	日高徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
笹壁 弘嗣	新庄徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
小林 司	山北徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
霜田 光義	皆野病院	外科部長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
能重 美穂	館山病院	医長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
石川 真	白根徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

松本 修一	宇和島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
野口 修二	山川病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
山本 晃司	屋久島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
満元 洋二郎	名瀬徳洲会病院	院長	研修実施責任者
高松 純	瀬戸内徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
小林 奏	喜界徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
新納 直久	徳之島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
玉榮 剛	沖永良部徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
高杉 香志也	与論徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
兼城 隆雄	宮古島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）
池村 綾	石垣島徳洲会病院	院長	研修実施責任者 臨床研修指導医（指導医）

4. プログラムの管理運営体制

年度のはじめに研修管理委員会を開催し、前年度における研修を評価するとともに必要に応じてプログラムおよび運営上の諸問題を検討し、修正すべき点を協議立案し、委員会の承認の下に更新する。新しく承認されたプログラムは小冊子として公表し、希望者に配布する。

5. 定員および選抜基準

① 定員 1年次 2名 2年次 2名

② 選抜基準(方法)

- ・医師臨床研修マッチング（公募）
- ・院長、臨床研修管理委員長、看護部長、事務長による面接、小論文
- ・応募書類：履歴書、卒業(見込)証明書、成績証明書、健康診断書、CBT 写し

6. 教育課程

- ① 所属及び配置初期研修の2年間は臨床研修管理委員会の所属として、管理責任者を臨床研修管理委員長とする。1年次は救急診療科(2ヶ月)、内科(6ヶ月)、外科(2ヶ月)、麻酔科(1ヶ月)の各科を必修科としてローテーションする。救急科はローテート科と並行して年間を通じて週1-2回の頻度で2年次修了まで継続的に研修する。
2年次は小児科(2ヶ月)、産婦人科(1ヶ月)、精神科(1ヶ月)、救急診療科(1ヶ月)、地域医療研修(2ヶ月)を必修科目としてローテートする。前述の診療科に加え、内科・外科・救急総合診療科・地域医療・脳神経内科・循環器内科・整形外科・泌尿器科・脳神経外科・麻酔科・産婦人科・小児科・産婦人科・放射線科・耳鼻咽喉科・皮膚科・形成外科・消化器内科・ホスピス科を選択し研修できる。
- ② 研修内容と到達目標 (各診療科別研修プログラム)
- ④ 教育に関する行事
 1. オリエンテーション
4月1日付採用とし、約5日間のスケジュールで研修オリエンテーションを行う。
 2. 各種カンファレンス
全指導医を交えた定期的な症例検討会およびCPCを開催する。
 3. 研修修了式及び年次修了式
3月の中旬～下旬に2年次修了者には研修修了書を授与する。
- ⑤ 指導体制
 1. 内科・外科・小児科・産婦人科
研修医1人当たりの受けもち患者を10名前後とし、チーム形式で上級医・指導医のもとベッドサイドでの実践的な研修を行う。尚、各科の指導責任者は研修全般における指導・評価を行う。
 2. 救急診療科
研修医に対し、指導医がマンツーマンで指導・評価をする。指導責任者は研修全般における指導・評価を行う。
 3. 精神科
研修医に対し、指導医が指導・評価を行う。指導責任者は研修全般における指導評価を行う。
 4. 放射線科・泌尿器科・整形外科・乳腺腫瘍科
研修医に対し、指導医が指導・評価を行う。指導責任者は研修全般における指導・評価を行う。

5. 地域医療研修

2 年次の必修ローテート科で 2 ヶ月の研修期間において僻地、離島の社会・生活・文化に触れ、過疎化・高齢化などの問題を抱える地域に適合した医療を実践し、地域医療の本質を理解する。研修全般について指導責任者が指導・評価を行う。

⑥ 研修評価

各科ローテート修了時に EPOC による評価を行う。

⑦ 修了認定

各研修医が研修手帳により 2 年間の研修による到達目標の達成を東京西徳洲会病院臨床研修管理委員会に申告し、同委員会が到達目標の達成度を確認し、修了を認定する。認定された者は、初期臨床研修プログラムを修了したことを明記した研修修了書が授与される。

⑧ 修了後のコース

3 年次以降は、各科より毎年定められる定員の範囲内において継続採用され、専門医取得を目的とした後期専門研修へ進むことができる。

ただし、定員を超える希望科については、初期研修における研修成績を参考とし、採用者を選考するものとする。

⑨ 研修の処遇

1. 東京西徳洲会病院 常勤医師

2. 規定により家賃の半額を支給（上限 50,000 円）。別途寮完備

3. 給与 1 年次 基本給 308,000 円/月 当直手当 25,000 円/回 （賞与年 2 回）

2 年次 基本給 329,000 円/月 当直手当 30,000 円/回 （賞与年 2 回）

別途諸手当あり

時間外手当あり

4. 勤務時間 月曜日～金曜日 8:30～17:00

土曜日 8:30～12:30

必要に応じて上記時間以外も研修時間とする。

例・・・緊急手術・分娩・カンファレンス・勉強会、当直など

5. 当直 救急診療科研修（当直）は月 6 回程度 17:00～23:00

個室当直室完備

6. 休暇 年間休日 110 日 有給休暇 1 年次 10 日、2 年次 11 日

7. 保険 健康保険 厚生年金 雇用保険 労災保険

8. 食事 院内食堂あり

9. 福利厚生 診療費用補助、健診・人間ドック費用補助（職員本人は無料）、
各種団体保険制度、企業型年金制度、パーソナルローン、
慶弔費制度、保養施設、職員食堂、職員専用 24 時間保育室、
互助会、夜勤者の食事補助、メンタルヘルスカウンセリング

10. 外部の研修活動

学会研究会等への参加：可

参加費用：有、出張扱い（学会等出張規定に準ずる）

10. アルバイトの禁止 病院業務以外のアルバイトをすべて禁じる

⑩ 資料請求ならびに問合せ先

〒 196-0003 東京都昭島市松原町 3-1-1
医療法人 徳洲会 東京西徳洲会病院
<http://www.tokyonishi-hp.or.jp/>
人事課 内田
E-mail: resi.tokyonishi@tokushukai.jp
T E L 042-500-4433
F A X 042-500-4434
プログラム責任者 佐藤一彦
E-mail: resi.tokyonishi@tokushukai.jp

初期臨床研修到達目標と自己評価表

研修理念

「生命だけは平等だ」の理念のもと、医師としての人格を涵養し、救急医療を中心に断らない医療の実践、医学の知識、医療技術、医療人としてのモラルを身につけさせ、社会に貢献できる医師を育成する。

基本方針

初期臨床研修は日本の医療制度の中で義務化されている唯一の研修である。

当院の研修の目標は、自分自身が良い臨床医になることだけでなく、後人を育てられる良い指導医になることである。

良い臨床医とは、患者に対して empathy を持ち、的確な診断治療を行なえる医師のことである。この目標が達成できるように研修体制には以下のような工夫がなされている。

1. 研修に集中できる。
2. チーム医療の研修ができる。
3. Primary Care, Emergency Care の研修が充実している。
4. スーパーローテーションである。
5. 僻地・離島医療を体験することができる。
6. 研修修了後も上級医として活躍できる。
7. 学会活動ができる。

初期臨床研修到達目標

(各研修医共通)

I 到達目標

医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。

A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

B. 資質・能力

1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ② 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ③ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

2. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。

3. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ③ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

4. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

5. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ② チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。

6. 医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ④ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

7. 社会における医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

- ① 保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。
- ③ 地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。
- ④ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ⑤ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑥ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。

8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点を研究課題に変換する。
- ③ 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ④ 臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。

9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。

C. 基本的診療業務

コンサルテーションや医療連携が可能な状況下で、以下の各領域において、単独で診療ができる。

1. 一般外来診療

頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。

2. 病棟診療

急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。

3. 初期救急対応

緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。

4. 地域医療

地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。

修了認定

1. 退院サマリーの書き残しがないこと
2. 到達目標の「A. 医師としての基本的価値観」、「B. 資質・能力」、「C. 基本的診療業務」それぞれの各項目の評価がレベル3以上に到達していること
3. 経験すべき29症候と26疾病・病態を2年間で経験し、病歴要約（病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を記載すること。「経験すべき疾病・病態」の中の少なくとも1症例は外科手術に至った症例を選択し、病歴要約に必ず手術要約を含めること
4. 研修した全ての診療科・経験項目の記入、入力を完了していること
5. 研修期間中の研修態度の著しい問題がないこと
6. 臨床病理検討会（CPC）においては、症例提示を行い、フィードバックを受け、考察を含む最終的な文書を提出すること。

経験すべき症候

外来又は病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、簡単な検査所見に基づく臨床推論と、病態を考慮した初期対応を行う。

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

経験すべき症候	経験したらチェック	病歴要約 確認	担当科					
			救	内	外	産	小	精
ショック	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
体重減少・るい瘦	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			
発疹	☐ ☐ ☐ ☐ ☐			●	●			
黄疸	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			
発熱	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●				
もの忘れ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐						●
頭痛	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●				
めまい	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●				
意識障害・失神	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
けいれん発作	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
視力障害	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●				
胸痛	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
心停止	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
呼吸困難	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●					
吐血・喀血	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●			
下血・血便	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●			
嘔気・嘔吐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●			
腹痛	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐			●			
便通異常（下痢・便秘）	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			
熱傷・外傷	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●			
腰・背部痛	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●			
関節痛	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			
運動麻痺・筋力低下	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●				
排尿障害（尿失禁・排尿困難）	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			
興奮・せん妄	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐						●
抑うつ	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐						●
成長・発達の障害	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐					●	
妊娠・出産	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐				●		
終末期の症候	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●			

経験すべき疾病・病態

外来又は病棟において、下記の疾病・病態を有する患者の診療にあたる。（26疾病・病態）

※経験すべき症候及び経験すべき疾病・病態の研修を行ったことの確認は、日常業務において作成する病歴要約に基づくこととし、病歴、身体所見、検査所見、アセスメント、プラン（診断、治療、教育）、考察等を含むこと。

経験すべき症候	経験したらチェック	病歴要約 確認	担当科			
			救	内	外	精
脳血管障害	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
認知症	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		●
急性冠症候群	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
心不全	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
大動脈瘤	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●		
高血圧	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●		
肺癌	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●	
肺炎	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
急性上気道炎	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
気管支喘息	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
慢性閉塞性肺疾患（COPD）	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
急性胃腸炎	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
胃癌	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●	
消化性潰瘍	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●	
肝炎・肝硬変	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●	●	
胆石症	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐			●	
大腸癌	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐			●	
腎盂腎炎	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
尿路結石	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●		
腎不全	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
高エネルギー外傷・骨折	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●		●	
糖尿病	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		
脂質異常症	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐	●	●		
うつ病	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐				●
統合失調症	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐				●
依存症（ニコチン・アルコール・ 薬物・病的賭博）	☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐		●		●

I. 到達目標の達成度評価

研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション修了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。

上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。

2年間の研修修了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。

研修医評価票

I. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価

A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

A-2. 利他的な態度

A-3. 人間性の尊重

A-4. 自らを高める姿勢

II. 「B. 資質・能力」に関する評価

B-1. 医学・医療における倫理性

B-2. 医学知識と問題対応能力

B-3. 診療技能と患者ケア

B-4. コミュニケーション能力

B-5. チーム医療の実践

B-6. 医療の質と安全の管理

B-7. 社会における医療の実践

B-8. 科学的探究

B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

III. 「C. 基本的診療業務」に関する評価

C-1. 一般外来診療

C-2. 病棟診療

C-3. 初期救急対応

C-4. 地域医療

研修医評価票 I

「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ~ _____ 年 _____ 月 _____ 日

記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

	レベル1 期待を 大きく 下回る	レベル2 期待を 下回る	レベル3 期待 通り	レベル4 期待を 大きく 上回る	観察 機会 なし
A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、限りある資源や社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐
A-2. 利他的な態度 患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。	☐	☐	☐	☐	☐
A-3. 人間性の尊重 患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。	☐	☐	☐	☐	☐
A-4. 自らを高める姿勢 自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。	☐	☐	☐	☐	☐

※「期待」とは、「研修修了時に期待される状態」とする。

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。特に、「期待を大きく下回る」とした場合は必ず記入をお願いします。

研修医評価票 II

「B. 資質・能力」に関する評価

研修医名：_____ 研修分野・診療科：_____

観察者 氏名 _____

区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____年_____月_____日 ～ _____年_____月_____日

記載日 _____年_____月_____日

レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
臨床研修の開始時点で 期待されるレベル (モデル・コア・カリキュラム相当)	臨床研修の中間時点で 期待されるレベル	臨床研修の終了時点で 期待されるレベル (到達目標相当)	上級医として 期待されるレベル

レベルの説明

B-1. 医学・医療における倫理性：

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■医学・医療の歴史的な流れ、臨床倫理や生と死に係る倫理的問題、各種倫理に関する規範を概説できる。 ■患者の基本的権利、自己決定権の意義、患者の価値観、インフォームドコンセントとインフォームドアセントなどの意義と必要性を説明できる。 ■患者のプライバシーに配慮し、守秘義務の重要性を理解した上で適切な取り扱いができる。		☐人間の尊厳と生命の不可侵性に関して尊重の念を示す。		☐人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。		☐モデルとなる行動を他者に示す。	
		☐患者のプライバシーに最低限配慮し、守秘義務を果たす。		☐患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。		☐モデルとなる行動を他者に示す。	
		☐倫理的ジレンマの存在を認識する。		☐倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。		☐倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づいて多面的に判断し、対応する。	
		☐利益相反の存在を認識する。		☐利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。		☐モデルとなる行動を他者に示す。	
		☐診療、研究、教育に必要な透明性確保と不正行為の防止を認識する。		☐診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。		☐モデルとなる行動を他者に示す。	
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-2. 医学知識と問題対応能力：

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■必要な課題を発見し、重要性・必要性に照らし、順位付けをし、解決にあたり、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な方法を見出すことができる。適切な自己評価と改善のための方策を立てることができる。 ■講義、教科書、検索情報などを統合し、自らの考えを示すことができる。		☐頻度の高い症候について、基本的な鑑別診断を挙げ、初期対応を計画する。		☐頻度の高い症候について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。		☐主な症候について、十分な鑑別診断と初期対応をする。	
		☐基本的な情報を収集し、医学的知見に基づいて臨床決断を検討する。		☐患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。		☐患者に関する詳細な情報を収集し、最新の医学的知見と患者の意向や生活の質への配慮を統合した臨床決断をする。	
		☐保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案する。		☐保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。		☐保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、患者背景、多職種連携も勘案して実行する。	
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-3. 診療技能と患者ケア：

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・意向に配慮した診療を行う。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■必要最低限の病歴を聴取し、網羅的に系統立てて、身体診察を行うことができる。 ■基本的な臨床技能を理解し、適切な態度で診断治療を行うことができる。 ■問題志向型医療記録形式で診療録を作成し、必要に応じて医療文書を作成できる。 ■緊急を要する病態、慢性疾患、に関して説明ができる。		□必要最低限の患者の健康状態に関する情報を心理・社会的側面を含めて、安全に収集する。		□患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。		□複雑な症例において、患者の健康に関する情報を心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。	
		□基本的な疾患の最適な治療を安全に実施する。		□患者の状態に合わせた、最適な治療を安全に実施する。		□複雑な疾患の最適な治療を患者の状態に合わせて安全に実施する。	
		□最低限必要な情報を含んだ診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切に作成する。		□診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。		□必要かつ十分な診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成でき、記載の模範を示せる。	
□	□	□	□	□	□	□	□
□ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-4. コミュニケーション能力：

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■ コミュニケーションの方法と技能、及ぼす影響を概説できる。 ■ 良好な人間関係を築くことができ、患者・家族に共感できる。 ■ 患者・家族の苦痛に配慮し、分かりやすい言葉で心理的社会的課題を把握し、整理できる。 ■ 患者の要望への対処の仕方を説明できる。		☐ 最低限の言葉遣い、態度、身だしなみで患者や家族に接する。		☐ 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。		☐ 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで、状況や患者家族の思いに合わせた態度で患者や家族に接する。	
		☐ 患者や家族にとって必要最低限の情報を整理し、説明できる。指導医とともに患者の主体的な意思決定を支援する。		☐ 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。		☐ 患者や家族にとって必要かつ十分な情報を適切に整理し、分かりやすい言葉で説明し、医学的判断を加味した上で患者の主体的な意思決定を支援する。	
		☐ 患者や家族の主要なニーズを把握する。		☐ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。		☐ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握し、統合する。	
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-5. チーム医療の実践：

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人の役割を理解し、連携を図る。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■チーム医療の意義を説明でき、（学生として）チームの一員として診療に参加できる。 ■自分の限界を認識し、他の医療従事者の援助を求めることができる。 ■チーム医療における医師の役割を説明できる。		□単純な事例において、医療を提供する組織やチームの目的等を理解する。		□医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。		□複雑な事例において、医療を提供する組織やチームの目的とチームの目的等を理解したうえで実践する。	
		□単純な事例において、チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。		□チームの各構成員と情報を共有し、連携を図る。		□チームの各構成員と情報を積極的に共有し、連携して最善のチーム医療を実践する。	
□	□	□	□	□	□	□	□
□ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-6. 医療の質と安全の管理：

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■医療事故の防止において個人の注意、組織的なリスク管理の重要性を説明できる ■医療現場における報告・連絡・相談の重要性、医療文書の改ざんの違法性を説明できる ■医療安全管理体制の在り方、医療関連感染症の原因と防止に関して概説できる		☐ 医療の質と患者安全の重要性を理解する。		☐ 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。		☐ 医療の質と患者安全について、日常的に認識・評価し、改善を提言する。	
		☐ 日常業務において、適切な頻度で報告、連絡、相談ができる。		☐ 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。		☐ 報告・連絡・相談を実践するとともに、報告・連絡・相談に対応する。	
		☐ 一般的な医療事故等の予防と事後対応の必要性を理解する。		☐ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。		☐ 非典型的な医療事故等を個別に分析し、予防と事後対応を行う。	
		☐ 医療従事者の健康管理と自らの健康管理の必要性を理解する。		☐ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。		☐ 自らの健康管理、他の医療従事者の健康管理に努める。	
☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐
☐ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-7. 社会における医療の実践：

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会と国際社会に貢献する。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■離島・へき地を含む地域社会における医療の状況、医師偏在の現状を概説できる。 ■医療計画及び地域医療構想、地域包括ケア、地域保健などを説明できる。 ■災害医療を説明できる ■（学生として）地域医療に積極的に参加・貢献する		□保健医療に関する法規・制度を理解する。		□保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。		□保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解し、実臨床に適用する。	
		□健康保険、公費負担医療の制度を理解する。		□医療費の患者負担に配慮しつつ、健康保険、公費負担医療を適切に活用する。		□健康保険、公費負担医療の適用の可否を判断し、適切に活用する。	
		□地域の健康問題やニーズを把握する重要性を理解する。		□地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案する。		□地域の健康問題やニーズを把握し、必要な対策を提案・実行する。	
		□予防医療・保健・健康増進の必要性を理解する。		□予防医療・保健・健康増進に努める。		□予防医療・保健・健康増進について具体的な改善案などを提示する。	
		□地域包括ケアシステムを理解する。		□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。		□地域包括ケアシステムを理解し、その推進に積極的に参画する。	
		□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要が起こりうることを理解する。		□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要に備える。		□災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要を想定し、組織的な対応を主導する実際に対応する。	
□	□	□	□	□	□	□	
□ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-8. 科学的探究：

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

レベル1		レベル2		レベル3		レベル4	
■研究は医学・医療の発展や患者の利益の増進のために行われることを説明できる。 ■生命科学の講義、実習、患者や疾患の分析から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断・治療の深化につなげることができる。		□医療上の疑問点を認識する。		□医療上の疑問点を研究課題に変換する。		□医療上の疑問点を研究課題に変換し、研究計画を立案する。	
		□科学研究方法を理解する。		□科学研究方法を理解し、活用する。		□科学研究方法を目的に合わせて活用実践する。	
		□臨床研究や治験の意義を理解する。		□臨床研究や治験の意義を理解し、協力する。		□臨床研究や治験の意義を理解し、実臨床で協力・実施する。	
□	□	□	□	□	□	□	□
□ 観察する機会が無かった							
コメント：							

B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢：

医療の質の向上のために省察し、他の医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

レベル 1		レベル 2		レベル 3		レベル 4	
■生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。		□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収の必要性を認識する。		□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。		□急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収のために、常に自己省察し、自己研鑽のために努力する。	
		□同僚、後輩、医師以外の医療職から学ぶ姿勢を維持する。		□同僚、後輩、医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。		□同僚、後輩、医師以外の医療職と共に研鑽しながら、後進を育成する。	
		□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）の重要性を認識する。		□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握する。		□国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌やゲノム医療等を含む。）を把握し、実臨床に活用する。	
□	□	□	□	□	□	□	□
□ 観察する機会が無かった							
コメント：							

研修医評価票 Ⅲ

「C. 基本的診療業務」に関する評価

研修医名 _____

研修分野・診療科 _____

観察者 氏名 _____ 区分 ☐ 医師 ☐ 医師以外（職種名 _____）

観察期間 _____ 年 _____ 月 _____ 日 ～ _____ 年 _____ 月 _____ 日

記載日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

レベル1：指導医の直接の監督の下でできる

レベル2：指導医がすぐに対応できる状況下ででき

る

レベル3：ほぼ単独でできる

レベル4：後進を指導できる

レベル	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	観察機会なし
C-1. 一般外来診療 頻度の高い症候・病態について、適切な臨床推論プロセスを経て診断・治療を行い、主な慢性疾患については継続診療ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-2. 病棟診療 急性期の患者を含む入院患者について、入院診療計画を作成し、患者の一般的・全身的な診療とケアを行い、地域連携に配慮した退院調整ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-3. 初期救急対応 緊急性の高い病態を有する患者の状態や緊急度を速やかに把握・診断し、必要時には応急処置や院内外の専門部門と連携ができる。	☐	☐	☐	☐	☐
C-4. 地域医療 地域医療の特性及び地域包括ケアの概念と枠組みを理解し、医療・介護・保健・福祉に関わる種々の施設や組織と連携できる。	☐	☐	☐	☐	☐

印象に残るエピソードがあれば記述して下さい。

臨床研修の目標の達成度判定票

研修医氏名：_____

A.医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)		
到達目標	達成状況: 既達／未達	備 考
1.社会的使命と公衆衛生への寄与	☐ 既 ☐ 未	
2.利他的な態度	☐ 既 ☐ 未	
3.人間性の尊重	☐ 既 ☐ 未	
4.自らを高める姿勢	☐ 既 ☐ 未	
B.資質・能力		
到達目標	既達／未達	備 考
1.医学・医療における倫理性	☐ 既 ☐ 未	
2.医学知識と問題対応能力	☐ 既 ☐ 未	
3.診療技能と患者ケア	☐ 既 ☐ 未	
4.コミュニケーション能力	☐ 既 ☐ 未	
5.チーム医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
6.医療の質と安全の管理	☐ 既 ☐ 未	
7.社会における医療の実践	☐ 既 ☐ 未	
8.科学的探究	☐ 既 ☐ 未	
9.生涯にわたって共に学ぶ姿勢	☐ 既 ☐ 未	
C.基本的診療業務		
到達目標	既達／未達	備 考
1.一般外来診療	☐ 既 ☐ 未	
2.病棟診療	☐ 既 ☐ 未	
3.初期救急対応	☐ 既 ☐ 未	
4.地域医療	☐ 既 ☐ 未	
臨床研修の目標の達成状況		☐ 既達 ☐ 未達
(臨床研修の目標の達成に必要な条件等)		

年 月 日

東京西徳洲会病院 プログラム責任者 _____